

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

北中城村まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

沖縄県中頭郡北中城村

3 地域再生計画の区域

沖縄県中頭郡北中城村の全域

4 地域再生計画の目標

【地域の現状】

（地理的特性）

北中城村は那覇から東北部へ約 16 km、沖縄本島の中部に位置し、面積は 11.54 km²あります。本村は、北側を沖縄市、南側を宜野湾市、中城村、西側を北谷町と接し、東側は中城湾に面しています。

村域には、国道 330 号、国道 329 号をはじめ、沖縄自動車道など、広域幹線道路が南北に走っています。また、北中城インターチェンジと喜舎場スマートインターチェンジが設けられており、本島中南部圏の交通の要衝となっています。

（産業別就業人口）

北中城村の産業別就業人口をみると、平成 27 年（2015 年）において、第 1 次産業は 1 割に満たず、100 人となっています。また、第 2 次産業が約 2 割の 950 人、第 3 次産業については約 8 割の 4,740 人で、沖縄県の値と比較すると第 2 次産業、第 3 次産業の割合が高くなっています。

産業別にみると、「サービス業」が 4 割の 2,876 人と最も多く、ついで「卸売り・小売業・飲食店」が約 2 割の 938 人となっています。また、昭和 60 年（1985 年）からの推移をみると、農業や製造業が緩やかに減少し、サービス業が増加しています。

(人口・世帯)

国勢調査より北中城村の人口・世帯数をみると、平成 27 年（2015 年）現在で 16,148 人、5,541 世帯となっています。昭和 60 年（1985 年）からの推移をみると、一貫して増加傾向にあり、特に平成 2 年（1990 年）から 7 年（1995 年）にかけての人口増加が目立っており、住民基本台帳によると令和 2 年（2020 年）3 月末現在には 17,577 人となっています。しかし、1 世帯当たり人員については毎年減少傾向にあり同年 3 月末現在では一世帯当たり 2.4 人となっています。

全体的な傾向として、「0～14 歳」及び「15～64 歳」は、減少傾向となります。「65 歳以上」は、2045 年（令和 27 年）をピークに減少傾向となる見込みです。特に、「15～64 歳」の減少傾向が著しく、2060 年（令和 42 年）年までに 3,568 人（約 35.9%）減少が見込まれます。高齢化率（65 歳以上の割合）は、2010 年（平成 22 年）時点では、20.2%ですが、2060 年（令和 42 年）には、41.1%となる見込みです。

(流出・流入別人口)

平成 27 年（2015 年）の国勢調査より通勤や通学での人口流動をみると、流出人口（3,065 人）に対する流入人口（3,233 人）は 105.5%で、流入傾向にあります。

流出先は沖縄市が最も多く 1,182 人で、次いで宜野湾市（632 人）、那覇市（467 人）、浦添市（397 人）、うるま市（387 人）の順となっています。また、通勤や通学で北中城村に流入する人口も、沖縄市が最多で 1,475 人となっています。以下、宜野湾市（662 人）、うるま市（589 人）、中城村（275 人）、北谷町（232 人）と続きます。

【課題】

上記の現状を受け、北中城村において生じる課題は次のとおりである。

① 少子高齢化への対応や、健康長寿のまちづくり

全国的傾向と同様に、北中城村も少子高齢社会に突入していきます。そのようななかで、平成 17 年（2005 年）から現在に至るまで女性の平均寿命が 3 期連続日本一となるなど、高齢者も元気に暮らしている状況も見受けられます。

これからは、スマートウェルネスの理念のもと、年代や障がいの有無を超えて、住民同士が助け合い、すべての村民が元気に暮らせる地域づくりが求められます。

② 防災や減災への備えと、自助・互助・共助・公助の確立

地域住民による防災への関心が高まっている今、常に変化する社会に対応できる新たな取り組みが求められています。

災害等の思わぬ事態が起きた際に、行政の力を借りながらも、個々に自立した村民が主体となり、「自らの生命、財産、生活」を自分たちの手で守るという自助・共助・公助を確立するための取り組みが求められます。

③ 循環型・低炭素など環境問題への対応

北中城村は、これまで“田園”「全村植物公苑づくり」を軸にしたまちづくりに取り組み、都市部に近接しながら、緑豊かな生活環境を維持し、それを広げる活動を展開してきました。今後とも緑の保全を図るとともに、適正な土地利用を進め、地域住民による“花”、“緑”を基調とした協働のまちづくりを広げていくことが求められます。

また、環境へ与える負荷を低減するために、あらゆる分野での資源の循環（リサイクル）や、クリーンエネルギーの活用等を展開し、循環型社会、低炭素社会の実現が求められます。

④ 産業振興と就業環境の創出

活力あるむらの形成には、地域の産業が充実し、雇用の場が確保されていることが重要です。

北中城村の資源や地理条件等を活かした創造性のある農業、水産業、観光・商工業の振興を目指すとともに、各分野が連携し地域の経済的波及効果を高める6次産業化への展開と就業環境の創出が求められます。

⑤ 交通利便性向上、交流機能の拡充

北中城村は、中南部の中核都市を結ぶ位置にあり、沖縄自動車道の北中城インターチェンジと喜舎場スマートインターチェンジが立地し、国道330号、国道329号が南北に走るなど、本島中南部の交通の要衝となっています。

一方、交通の利便性の良さから交通渋滞の慢性化や、生活道路への通過交通の進入も見られることから、適正な交通ネットワークの形成も求められま

す。また、沖縄県による鉄軌道を含む新たな公共交通システムや、村域内交通としてのコミュニティバスなど新たな施策に対する検討も求められます。

⑥ 住民主体のまちづくりへの展開

地方分権の動向のなかで、北中城村においても行財政の見直しをはじめ、地域住民と連携したまちづくりを進めてきました。

今後は、住民自らが自治会やボランティア活動、NPO活動など多様な形態で行政と連携した自主的な地域社会づくりを進めていくことが重要であり、そのためには、まちづくりに対する情報提供の充実や、積極的な住民参画が行える仕組みや支援体制づくりが求められます。

⑦ 地域の自立と活力あるまちづくり

様々な分野で世界の国々の垣根が低くなり、国レベルでの観光振興策が展開されるなか、地域間交流の促進とともに、地域間競争も激しくなっています。

本村においては世界遺産である中城城跡を中心に、地域の魅力（歴史・文化）を伸ばすとともに、農商工連携や6次産業化により、経済的、文化的波及効果を高めていくための展開が求められます。

また、ライカム地区の広域交流拠点の整備により、交流人口の増加が期待されるとともに、中城湾港新港地区の背後地にある立地を生かした新規産業等の誘致・育成も求められます。

【基本目標】

上記の課題に対応するため、北中城村の将来像“平和で人と緑が輝く 健康長寿と文化のむらきたなかぐすく”の実現に向けて、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、北中城村におけるまち・ひと・しごと創生を推進していきます。

- ・基本目標1 全村植物“公苑づくり”
- ・基本目標2 生涯健やかで笑顔あふれる“健康づくり”
- ・基本目標3 人と文化を育み時代を担う“人づくり”
- ・基本目標4 ゆいまーるで築く安全・安心な“地域づくり”
- ・基本目標5 地域の魅力を活かしたにぎわいある“産業づくり”

・基本目標6 村民と共に創造する夢のある“まちづくり”

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	ライカム地区の人口	381人	1,445人	基本目標1
	地区公園数	22箇所	26箇所	
	コミュニティバスの年間利用者数	—	42,000人	
	一般廃棄物の再生利用率	11.0%	15.0%	
	水洗化（接続）率	65.4%	70.0%	
イ	女性の平均寿命	89.0歳	89.1歳	基本目標2
	男性の平均寿命	81.1歳	82.3歳	
	特定健診受診率	44.1%	60.0%	
	メタボリックシンドローム（予備軍含む）の割合	39.1%	28.13%	
健康づくりに関する他分野との連携企業数	4企業	6企業		
ウ	全国学力・学習状況調査平均正答率の向上	小学校61.5 中学校56.1	小学校：全 国水準+5 中学校：全 国水準	基本目標3
	学習習慣・学習意欲の向上	76.3%	80.0%	
	北中城村社会教育計画の策定数	0	1	
	歴史まちづくり計画（歴史的風致維持向上計画）の策定数	0	1	
	海外移住者子弟受入人数（累	81人	99人	

	計)			
	夜間パトロール参加者数	20人程度/ 月	20人以上/ 月	
エ	保育所入所待機児童数	55人	0人	基本目標 4
	要介護（支援）認定率	16.4%	15.0%	
	障がい者等の一般就労者数	3人/年	5人/年	
	自主防災組織の設立	5団体	10団体	
	交通死亡事故	0件	0件	
	ボランティア活動登録者数	230人	284人	
オ	村内観光入込客数（年間）	203,000人	244,000人	基本目標 5
	遊休農地面積	51ha	39ha	
	水耕栽培による農業者の育成	0人	5人	
	バイオガス発電量	0kwh	20万kwh	
	アーサ（ヒトエグサ）収穫量	24.5t	40.0t	
	雇用サポートセンター就業率	4.3%	9.0%	
カ	地域振興事業等の採択数	10団体	10団体以上	基本目標 6
	財政力指数	0.50	0.64	
	基金残高	11.5億円	15.0億円	
	審議会等委員に占める女性の割合	34.3%	37.0%	
	役場男性職員の育児休業取得率	19.0%	25.0%	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

北中城村まち・ひと・しごと創生推進事業

- ア 全村植物“公苑づくり”事業
- イ 生涯健やかで笑顔あふれる“健康づくり”事業
- ウ 人と文化を育み時代を担う“人づくり”事業
- エ ゆいまーるで築く安全・安心な“地域づくり”事業
- オ 地域の魅力を活かしたにぎわいある“産業づくり”事業
- カ 村民と共に創造する夢のある“まちづくり”事業

② 事業の内容

ア 全村植物“公苑づくり”事業

北中城村には、中城城跡や御嶽などを抱く丘陵地を中心に多くの緑地が存在し、都市化が進む沖縄本島中南部における貴重な自然環境として位置づけられます。

よって、適正な土地利用のもとで、これら自然環境の保全を図り、市街地や集落における、潤いのある住環境を形成するとともに、ライカム地区における広域交流拠点の形成、公共交通対策、廃棄物対策、環境衛生をすすめる、みどりあふれる全村植物“公苑づくり”をめざします。

【具体的な施策】

- ・農を活かした健康・福祉の里づくりに向けた推進事業
- ・キャンプ瑞慶覧特定駐留軍用地推進基金事業
- ・観光周遊バス実証事業 等

イ 生涯健やかで笑顔あふれる“健康づくり”事業

北中城村は、元気な高齢者が地域づくりに活躍し、女性の平均寿命が日本一になるなど、健康長寿のむらとして知られていますが、一方で若年層を中心として健康状態が危ぶまれる状況も見受けられます。

よって、村民一人ひとりの自覚のもと、村全体で楽しみながら健康づくりができるよう支援をすすめる、生涯健やかで笑顔あふれる“健康づくり”をめざします。

【具体的な施策】

- ・健康づくり三事業
- ・健康診査事業
- ・予防接種事業 等

ウ 人と文化を育み時代を担う“人づくり”事業

北中城村においては、世界遺産中城城跡をはじめとした多くの歴史文化資源があり、また、地域と学校が連携した社会全体での教育への取り組みが行われています。

よって、子どもからお年寄りまですべての村民が地域のことに関心を持ち、学ぶ機会を広げるとともに、歴史や文化の振興と継承、平和活動や国際交流などの機会拡充、地域で青少年育成などにより、人と文化を育み時代を担う“人づくり”をめざします。

【具体的な施策】

- ・伝統芸能振興基金事業
- ・中学生・高校生海外短期留学派遣事業
- ・海外子弟青年交流事業 等

エ ゆいまーるで築く安全・安心な“地域づくり”事業

北中城村においても、県内外と同様に少子高齢化が進行しています。また、子供や障がい者などの社会的弱者がすみよいまちづくりが求められています。

よって、地域との連携により、子育て支援や、高齢者・障がい者への支援をすすめるとともに、自助・互助・共助・公助による地域防災力の高いコミュニティーの形成、ユニバーサル社会の実現により、ゆいまーるで築く安全・安心な“地域づくり”をめざします。

【具体的な施策】

- ・特別支援保育事業
- ・生きがい活動支援通所事業
- ・地域活動支援センター事業 等

オ 地域の魅力を活かしたにぎわいある“産業づくり”事業

北中城村は、海岸低地や台地、丘陵地など起伏に富んだ地形と肥沃な農地、そして豊かな海の幸を有しています。また、交通の要衝として、アワセ地区における広域交流拠点の形成も進んでいます。

よって、これらの資源を活用した農水産業の振興をはかるとともに、世界遺産中城城跡をはじめとした歴史文化資源を活かした観光を進めます。また、農商工・観光の連携による六次産業の多角的な展開によって、地域の魅力を活かしたにぎわいのある“産業づくり”をめざします。

【具体的な施策】

- ・ 農を活かした北中城活性化事業
- ・ 農を活かした健康・福祉の里づくりに向けた推進事業
- ・ 観光誘客プロモーション事業 等

カ 村民と共に創造する夢のある“まちづくり”事業

北中城村民が、子どもからお年寄り、男女、国籍のあるなしに拘らず夢や生きがいに向かって個性と創造力を発揮できる社会が求められています。

よって、協働のまちづくりに向けた広報活動や参加機会の拡充、効率的な行財政運営、男女共同参画、人権が尊重される社会への取り組みなどにより、村民と共に創造する夢のある“まちづくり”をめざします。

【具体的な施策】

- ・ 村民提案助成事業
- ・ 広報誌等制作事業 等

※ なお、詳細は北中城村第四次総合計画 基本構想・後期基本計画 第2期北中城村まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

802,500千円（2020年度～2024年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度9月に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後速やかに北中城村公式ホームページ上で公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から 2025 年 3 月 31 日まで

5-3 その他の事業

該当なし

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から 2025 年 3 月 31 日まで